

主日礼拝 2020年8月9日(日)

題 「聞かせてください」

テキスト：ローマの信徒への手紙10章：14～21節
(聖書の箇所は最後にあります。)

75年前、1945年8月9日には、時の米軍により長崎に原爆が投下されました。

核兵器の無くなる日を祈ります。核兵器の恐怖を象徴する物差しがあるということです。米国の専門誌「原子力科学者会報」が、広島・長崎原爆の2年後から発表してきた「終末時計」のことです。核による人類の滅亡までの残り時間を見積もり、針が動きます。今年1月、過去最悪となる「残り100秒」まで来てしまったそうです。

世界では3年前に核兵器禁止条約が採択されましたが、日本政府は、日米安保条約で米国の核による拡大抑止、いわゆる「核の傘」にいることを理由に、条約に背を向けているとのこと。とても残念なことだと思います。日本こそが、世界で率先して核廃絶のリーダー国として働かなければならないのだと思うのです。

今は、日本中、世界中にコロナウィルスが蔓延する中ですが、共に世界の平和のために祈りを合わせることを感謝いたします。世界中、人は祈りでつながることができ、平和をつくる行動を起こしていけるのだと信じます。

与えられた聖書の言葉に聞きましょう。

若い頃、聖書は時には後ろから読んだら良く分かると聞いたことがあります。今日のパウロが語っている箇所もそうではないかと思います。

14節から17節の部分です。ここには福音に生かされ、聖書のことばを語る時に励まされることばが記されています。

17節からです。

「17節：実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」とあります。

信仰は聞くことから始まるということです。「始まる」という言葉は、他の聖書の訳では「生まれる」とか「生じる」と訳されています。

私たちの信仰は、聞くことから、それもキリストの言葉を聞くことから生まれる、始まると言われます。神さまの見えざる、しかし神さまの力である聖霊の力によって、わたしたちの心の中に、イエスを救い主キリスト、「イエスはわた

しの主」であると信じる心が呼び起こされて行くのだと思います。そしてキリスト者として、厳しく、時に辛い人生の中においても神さまが共にしてくださる恵みを感じながら生きていけるのです。このことは本当に有難く感謝なことです。

「聞かせてください。」との謙虚な思いが大切なんだと思います。それも「キリストの言葉」を聞くことがスタートラインです。具体的にはイエス様のことが書いてある福音書のことばが基本です。そして新約聖書、旧約聖書全体に広がっています。

しかし、残念なことですが、聖書のことばを聞いた人たちが、全員その言葉を聞いて従ったわけではありません。16:しかし、すべての人が福音に従ったではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。旧約時代の預言者イザヤの嘆きの言葉です。これは18節以降に出て来る、神さまに選ばれながらも、繰り返し神様に反逆して来たイスラエルの民、民族としてパウロと同じ民族です。パウロを迫害する人々であったのです。パウロは自分の親しかった人々から裏切られる経験を度々重ねて来たのです。パウロの嘆きと悲しみを想うのです。わたしたちもそのような経験をすることもあります。でも希望と忍耐を持って、美しい知らせを伝えていくのです。

わたしたちも日常の中で、「神さま、あなたの言葉を聞かせてください。それに従わせてください。」との祈りを持ち、心静かに聖書を読む習慣を少しでも身につけたいものです。その積み重ねが、わたしたちの信仰を保たせ、心に主にある平安を注がれて行くために大切なことなのです。

さて、次は15節になります。

このキリストの言葉を伝える人たちが立てられたというのです。

15:遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。

ここは聖書でも本当に美しい言葉だと思えます。良い知らせ、福音、神の恵みの言葉を伝える者たちが立てられたということ、その人々は自分の力で何かができるということではなく、神さから遣わされているのだということです。きっとパウロは伝道者としての自分の歩みを振り返りつつ切々と語りかけているように思えるのです。洲本教会は今年創立117周年を迎えます。

2階にも初期の頃に遣わされた宣教師の方々、教会に仕えられた教職の方々の写真が掲げられています。

宣教師、牧師、だけではなく、多くの天に召された信徒の方々が様々な形で

主イエスの教会のために遣わされたのです。

そして、今日わたしたちもその群れに加えられているのです。

「14:ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。」とあります。

信仰者は、キリストのことばを聞き、与えられた人生を通して、神とイエス・キリストを、喜びの時も、悲しみの日にもその名を呼び求めて生きていくのです。母親を呼び求める子どものように神さまを呼び求めて生きて行くのです。それで良いのです。

パウロの理解によれば、パウロの同族、先に神に選ばれたイスラエルの民は、神の言葉を聞いたのに、それに従わなかったのです。そこで、神の救いの計画は、神の選ばれた民、イスラエルではなく、異邦人、外国人に向いて行ったのです。しかし、神さまは今でも、ご自分の選ばれたイスラエルの民を愛しておられることが語られています。18節から21節です。

選ばれた者たちに対する神さまの愛、一方的な愛は変わらないのです。

神さまの人知を超えた測りがたい救いの計画を思います。ただ神の言葉と、神の愛はとこしえに変わることがないのだと、今日聖書のことばを通して教えられたことを主イエスに、神に、御霊に感謝します。

世界に主の平和と皆様の上に神様からの平安をお祈りいたします。

- 14:ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。
- 15:遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。
- 16:しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。
- 17:実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。
- 18:それでは、尋ねよう。彼らは聞いたことがなかったのだろうか。もちろん聞いたのです。「その声は全地に響き渡り、／その言葉は世界の果てにまで及ぶ」のです。
- 19:それでは、尋ねよう。イスラエルは分からなかったのだろうか。このことについては、まずモーセが、／「わたしは、わたしの民でない者のことで／あなたがたにねたみを起こさせ、／愚かな民のことであなたがたを怒らせよう」と言っています。
- 20:イザヤも大胆に、／「わたしは、／わたしを探さなかった者たちに見いだされ、／わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した」と言っています。
- 21:しかし、イスラエルについては、「わたしは、不従順で反抗する民に、一日中手を差し伸べた」と言っています。